

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	サロン・ド・フレール羽島
所在地 (県・市町村名)	岐阜県羽島市竹鼻町丸の内9丁目53番地
記入者名 (管理者)	岩田 定之
記入日	平成19年5月31日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「響きあい」というケア理念のもと、利用者様・ご家族様・地域の方々と響きあっていけるよう、目指している。	○	今後もますます「響きあい」の関係ができるよう、日々の挨拶から大切にしていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は会議などでも、方針や目標を話、職員も日々意識して取り組んでいる。	○	新しい職員にも、意識が広まるよう、よく話をしていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	毎月のホーム新聞に掲載している。また、リビングにも掲示している。	○	地域の方が、外からも分かるような取り組みをしていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	買物や散歩など、日々の外出時の挨拶、気軽に声をかけて下さるような雰囲気作りに努めている。	○	徐々にではあるが、声をかけて下さる回数、尋ねて下さる回数が増加してきたため、今後もますます力を入れていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加し、可能な限り地域の行事に参加できるよう、努めている。	○	徐々にではあるが、地域の方々にどんな所であるのか、どんな人がいるのか理解していただけているため、今後も地域の方々と交流の場を大切にしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	本年度3月には、地域の中学生に対して施設実習を取り入れて、スタッフ間の話し合いの基「介護・認知症の知識」を広げられるように取り組みをした	○	認知症の正しい理解を広めていけるような取り組みをしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議などでも話し合い、その改善策を日々の業務に生かすよう取り組んでいる。	○	新しい職員にも、よく理解してもらえよう、よく話をしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの取り組み内容、検討内容等について、幅広い方々の意見を伺い、視野を広く持つよう努め、質の向上を目指している。	○	運営推進会議の内容が、全職員が把握し、日々の業務に生かせるよう、よく話をしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも、機会をつくり、相談、検討内容をお話し、市町村の現状把握に努め質の向上を目指している。	○	ますますの連携に努め、市町村の中でのホームとして、もっとサービスの質の向上を目指していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実際に検討事例があった場合に会議の場や、日々の話し合いの中で、学ぶ機会を持つ事ができた。	○	必要な人には適切に支援ができるよう新しい職員も含めた勉強会を開催していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	会議の中で高齢者虐待防止関連法について学び、日々の業務の中でも意識している。	○	今後も防止の徹底に努めたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前訪問、見学時にも説明している。また、その都度、疑問点があれば十分な説明を行い理解していただけるよう努めている。	○	契約時以外にも、不安や疑問点を気軽に話していただけるような、雰囲気作りに努めていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員は常に意見等を受け入れられる体制作りをしており、利用者が気軽に意見等を言い出せるような雰囲気作りに努めている。	○	意見等を運営に反映させるため管理者と職員の話し合いの場を定期的に設けていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム新聞を作成し、家族へ送付している。また、面会時や電話等で個々にあわせた報告を行っている。	○	気軽に面会に来ていただき、話していただけるような雰囲気作りに努めている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員は常に意見等を受け入れられる体制作りをしている。外部の苦情相談窓口も玄関に表示している。	○	意見等を日々の教務に反映させるため、話し合いの場を設けている。気軽に参加していただけるような家族会の実施をしていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なヒヤリングの場を設けている。また、その都度、管理者に意見や提案をし検討したうえで業務に反映させる場合もある。	○	ヒヤリングの場以外にも、職員が提案しやすいような雰囲気作りに努めていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じて、柔軟な対応が出来るよう職員同士、協力できている。	○	今後も協力していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等がないよう、管理者によるアドバイス・配慮が行われている。	○	異動や離職を考える原因が職員により対処できるものであれば、未然に防ぐ事ができるよう対処方法を考え対応していきたい。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員など、各段階に応じた育成計画を立て、それに合わせた研修の機会の情報伝達がある。	○	各研修で学んだ内容を全職員に広めて学んでいけるような場を設けたい。また、全職員が意欲的に研修に参加できるような環境作りをしていきたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者及び管理職が、ホームの代表として交流ネットワーク作りを行い、広い視野を持ちサービスの向上を目指している。	○	ホーム全体での交流としては、まだ少ないため今後取り組んでいきたい。また、そこで学んだことを日々の業務にいかせるよう話し合いの場も設けていきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者及び管理職が、職員のストレス軽減のために、普段からよく話をし悩みを気軽に言い出せるような雰囲気作りに努めている。	○	各職員からの悩み、相談事に対して、迅速かつ適切に対応していけるよう努めていきたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の職員の努力、実績等の把握に努めている。	○	各職員が、向上心を持って働き続けることができるよう、把握した内容をいかしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	必ず事前訪問の機会を設け、本人自身と合わせていただき、よく話を伺うよう努めている。	○	本人自身が話しやすいような姿勢や雰囲気作りに努める。また言葉として自身の思いを表せない方でも、汲み取るように対応していきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時には、相談者の話をよく聞き主訴をしっかりとらえることができるよう努めている。	○	相談者が話しやすいような姿勢や雰囲気作りに努める。また、1回の話だけでなく何度も顔を会わせての話の機会を設け、信頼関係の構築に努めたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、主訴をしっかりとらえ、当グループホームだけでなく、他のサービス利用も含めた情報提供により、より良い支援方法を見極めていけるよう努めている。	○	更に、色々な立場から支援にむけた対応に努めたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族の状況に応じ対応するよう努めている。	○	状況にもよるが、可能な限り本人、家族に当ホームはどういう所なのか、安心・納得した上でのサービス開始を目指していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人を共に支え合う関係を、ケア理念の中に掲げ食事作り・野菜作り・縫い物等を通じ、その機会を設け関係を築くよう努めている。	○	今後もますます、機会・場面作りを大切にし、より良い関係を築いていけるよう努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話時など、ホームでの本人の様子をこまめに伝えるよう努め、一緒に本人を支えていく関係を目指している。夏祭りへの参加を促す。	○	外出、行事などに気軽に一緒に参加していただけるよう、働きかけていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの経緯を正しく理解するために、情報交換に努め、より良い関係が築いていけるよう取り組んでいる。	○	正しく理解するために、細かい情報収集にも、常に心掛けていきたい。外出などへの共同参加。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の本人との会話や、家族との会話からも情報を収集し、支援に努めている。馴染みのお店や食事へ行く。	○	実際に馴染みの場所へ出かけられる様、支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様の言動、会話等に注意し円滑に過ごせるよう、時にはパイプ役となりながら努めている。	○	新しい利用者の方も孤立しないよう、さり気なく支援していきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても、場合によって継続的な関わりを大切にしている。	○	いつでも、気軽に連絡していただけるよう施設行事、年賀状、暑中見舞い等でも関係を大切にしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は本人に関する様々な情報、ちょっとした仕事、表情をもとに検討している。	○ 自分の思いを表情や仕草などで表現する事が困難な場合にも、何かしらサインがあるものと考え、そのサインを見逃さないよう日々関わっていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時当所の情報にとどまらず、年月をかけて信頼関係が築けているからこそ伺える情報を大切にしている。また、その信頼関係の構築に取り組んでいる。	○ 一人ひとりの生活歴の詳細から、これまでの人生を把握し日々のサービスに反映できるよう面会にみえた時などを利用し、こまめに話を伺っていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	定期的なアセスメントを行ない、一人ひとりの現状を総合的に把握するよう努めている。	○ 把握した現状に合わせた、さらなるサービスの質の向上に努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりの現状を踏まえた課題について、必要な関係者と話し合い、本人により良く生活していたできるよう、介護計画を作成している。	○ チーム全体で、より深く内容を把握するために、全体での話し合いの場をもっと設けていく必要がある。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直し以外にも現状が変化した場合には、その現状に即した計画を作成できるよう見直している。	○ 細かな事まで突き詰めれば、毎日変化はあるため、介護計画の中にも臨機応変さが求められる。全職員が把握し対応するためには、もっと話し合いの場を設けていく必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の些細な変化や気づきを、個々の介護記録、連絡ノート、申し送り簿などに記入している。それらを介護計画の見直しに活かしている	○	全職員が情報を共有し意欲的に取り組むために、全職員の意識向上を目指し、こまめによく話をしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	時々、家族もホームに泊まっている。ホーム内がバリアフリーになっているため車椅子の方でも生活していただける。浴槽も三形態あるため、状態に応じて入っていただける。	○	家族の方の体調不良時、救急医療の活用
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	恵まれた立地条件を活かし、より良く生活していただけるよう様々な地域資源との協働に努めている。	○	より良く暮らし続けていただくために、今後もますますの協働に努めていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他の医療機関の活用に努めている。(眼科・歯科など)	○	理学療法士の方に月に1回来ていただいている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターに出向いたり、又、電話での連携を図っている。	○	更に密な関係作りを取り、協働していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	本人の状況に応じた、より適切な医療を受けられるように支援していきたい。
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	より、本人の状況に応じた認知症の理解が得られるよう、今後も関係を築いていきたい。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	より良い支援ができるよう協働していきたい。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	今後も、入院中の方が安心して入院生活ができるよう、面会をこまめに行きたい。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	終末期に向けた話し合いの中で、具体的にあがっている、様々な課題について実行していきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	具体的な課題について、チームで取り組んでいけるよう、チーム全体のレベルアップを目指し、勉強会等の機会を設けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホームでの生活の様子をサマリーや電話等で情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐよう努めている。	○	本人が安心できるようになるまで、馴染みの人の協力を促し支援する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーや個人情報の取り扱いには十分配慮しているつもりだが、言葉かけの内容によっては、自分自身で気付かずに失礼な言葉となってしまうのかもしれない。	○	全職員で、お互いに指摘しながら徹底していけるよう努めたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その方の状態に合わせて、働きかけ方を工夫している。	○	働きかけの成果に応じて、さらに本人様が暮らしやすく生活していただくように支援する。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にすることが大前提とし、他の利用者の方との共同生活であることも考慮しながら、常に一人ひとりのその人らしい暮らし方を追求している。	○	共同生活の中で可能な限り、その人らしい暮らし、ご希望にそえるよう、今後も工夫していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	可能な限り、その人らしい身だしなみ、おしゃれに心掛け支援している。美容院へ行く事が好きな方は、定期的に行けるよう支援している。	○	外出時のお化粧品について、声かけだけでなく気分も振り向いて下さるような工夫を何かしていきたい。普段も身だしなみの支援の継続。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時間をゆったりと過ごしていただけるような雰囲気作り、話題作りに努め、準備や片付けにおいても、可能な限り一緒に出来るよう努めている。	○	食事のときのメニューの盛り付けにも気を配り、五感に感じてもらいながら支援する。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの状況に合わせて、出来る限りご希望にそえるよう努めている。	○	お酒好きな方においては、もっと日常的に楽しめるよう、回数を多くしていきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、パット内排泄前にトイレ誘導できるよう努めている。	○	ひどい便秘の方に関して、少しでも本人に苦のないような方法、習慣を見つけていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	共同生活の中で、可能な限り一人ひとりの希望、タイミングにそえるよう努めている。	○	入浴がお好きでない方に関して、少しでも本人に苦のないような方法を見つけて配慮していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて、適度な休息をしていただけるよう、音楽をかけたりしながら、ゆったりとした雰囲気作りに努めている。	○	四季に応じた適温の管理を行っている。季節に応じた衣類、布団の管理支援。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を活かした気晴らしの方法を探り、可能な限り支援している。	○	全員の方が、日々楽しみごとを見出せるような支援をしていきたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお財布を持っていただいたり、買物へ行ったときのお支払いなど、一人ひとりの状況に応じて対応している。	○	買物の時、時間をかけてお支払いができるよう、お店の方や、他のお客さんへの理解をもっと広めていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日など気持ちよく外出できるよう支援している。	○	個人の希望(家族の)にそった計画作りと実施を行っている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	回数は少ないが機会を作り、出来る限り支援するよう努めている。	○	気軽に家族も一緒に出かけられるような機会を、もっと設けていきたい。外出プランの話分けを行っている。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人ひとりの状況に応じて支援している。家族からの協力も促して、週に何回かの電話でのお話をしている。	○	時間をかければ、出来そうな方に関してもっとじっくり取組んでいきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に来ていただけるような雰囲気作り、対応に努めている。	○	本人様の以前の職場の仕事仲間の方々の訪問などしていただいている。施設側からの案内状の支援をしていく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議などで、法令を学びホームの環境を見直し、全職員が身体拘束のないケアを実践している。	○	本人、ご家族、医療面において拘束が必要な案件時でも対応出来る体制作りと、身体拘束しない取組みを行なっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設立地条件面から、安全面と治安面を考慮して取り組んでいる。	○	施設の玄関も治安と立地条件面から、いつでも鍵を必要としない。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら、一人ひとりの様子を把握できるよう、さり気なく見守りを行い、必要に応じ、声かけを行っている。	○	日夜問わず、引き続き見守り巡視に、留意していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	さり気なく見守りを行い、一人ひとりの状態に応じて、環境を整えたり、声かけを行っている。	○	日常生活空間では、目につきやすい物はカーテンなどをさりげなく使い安全に努めている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ、はっと報告書、事故報告書を活用し、同じ事柄が起きないように、意識を高めている。	○	具体的な改善策を全職員が徹底して実施できるよう、よく話をしていきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	会議等で、様々な問題をあげて検討している。	○	全職員を対象とした訓練の機会を定期的に行いたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣の消防署に訓練を依頼して定期的に行っている。マニュアルと避難時の把握に努めている。	○	本人様と一緒に訓練の実施に、今後も努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状況の変化によって起こり得る様々なリスクについて、その都度、家族等に説明し理解を得られるよう努めている。	○	抑圧感のない暮らしを大切にしたい安全な対応策を追求していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異変をすぐに気付けるよう、日々心掛けている。気付いた時には速やかに対応できるよう目指している。	○	日々、医療面と連携できる体制作りに努めている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	何度も職員間でチェックし、誤りのないよう意識を高めあっている。	○	全職員が、薬それぞれの目的、副作用等を正しく理解し、誤りのないよう徹底していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分を多く、こまめに摂ったり繊維質の多い食品の摂取、腹部のマッサージ等意識して取り組んでいる。	○	引き続き予防に努め、医師等の意見交換などを踏まえて対応していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアに努めている。一人ひとりの状態に応じ支援方法を工夫している。	○	毎食前後の口腔の支援を行っていき、本人様にあったケアを行っていく。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量は常にチェックしている。摂取量が少ない時には、本人の好み気分に合わせたもの、タイミングにより少しでも摂取できるよう努めている。	○	夏場は特にこまめな水分補給に努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルをもとに、会議等で学び予防に努めている。本部からも日々情報、指示のもとで対応している。	○	石鹸による手洗い、うがいの徹底。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の清潔保持に努め、食中毒のないよう安全な食事に心掛けている。	○	日々の情報、ニュースなどをふまえて、衛生面に留意していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりに、草花を植え、開放的で家庭的な明るい雰囲気を目指している。	○	道へ出る時の段差の解消。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、皆さんの写真を飾ったり、季節感を感じていただけるよう、その都度インテリアの工夫をしている。	○	利用者の手作りの物を飾るなど、より居心地良く過ごしていただけるような、空間作りを追求したい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にも、ところどころに気の合った利用者同士で過ごせるようなスペースを作っている。	○	個別で、よりゆったりと対応、対話ができるような時間作り。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、愛着のある物など本人、家族に協力を得ながら本人が居心地良く過ごしていただけるよう配慮している。	○	使い慣れた家具、愛着のある物等もっと、持って来ていただくことができるよう、相談していききたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	さり気ない窓開けの声掛けを行い換気に努め、乾燥時には加湿にも配慮している。	○	状況に応じて、よりこまめに行っていけるよう徹底したい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを利用したの歩行、シルバーカー、車椅子での歩行等、全ての方が安全に生活していただけるような空間作り、目配り、声かけに努めている。	○	生活リハビリの観点から、日常生活動作に留意して行っている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの状況に応じて、声かけや表示、ジェスチャーなど工夫している。また、表情の変化やサインなど見逃さないよう努めている。	○	日々の生活面で、出来る事への促しを心掛け、時間等におわれず、ゆっくり行えるように支援している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	園芸や物干し、テラスでお茶等、利用者の方が気軽にテラスへ出られるよう工夫している。	○	四季に応じた活動プランを作り、本人様の出来る事への支援をしている。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない 利用者の思いや願い、意向に添ったものにしたいという思いはあるが共同生活の上でなかなか、その通りに出来ない所もある。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない 1日の内で、出来る限り一緒にゆったりと過ごせる場面を作るよう努めている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない 共同生活の上で、なかなかその通りにできない所もある。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない 全員の生き生きとした表情、姿を見られるよう日々努めている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない 可能な限り、意向に添えるよう日々努めている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない 多少なりとも、自分自身の身体、家族の事など、不安は持って見えると思う。話をよくうかがうよう努めている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない 可能な限り、意向に添えるよう日々努めている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない 電話、面会時などよく話を伺い、話しやすい雰囲気になし、信頼関係が築けるよう心掛けている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない だんだん、訪ねて来て下さるようになった。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない 少しずつではあるが、確実に協力者を得てきていると思う。
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない 職員は、利用者様一人ひとりの思いに添えるようなサービスをしたいと思っているものの、共同生活のために、難しいという葛藤がある。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない 98の通り。個々に我慢して下さっている点はあると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない 98の通りのため、ご家族様も個々に我慢して下さっている点はあると思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)